

PETER SELLERS

IN

THE
PINK
PANTHER
STRIKES
AGAIN

ついに来た
最新作!

BLAKE
EDWARDS'

ギャグもスケールも
100倍にふくれて
日本列島が笑いの
洪水に沈没します。



カラー作品
パナビジョン

3

©U.A.C.—GEOFFREY

ピーター・セラーズ

ハーバート・ロム/コリン・フレイクリー/レナード・ロシター/レスリー・アン・ダウン
製作・監督 ブレイク・エドワーズ ■ 音楽 ヘンリー・マンシーニ
United Artists ユナイテッド映画
A Transamerica Company ユナイテッド映画
唄/トム・ジョーンズ

ピンクパンサー

●史上最大のコメディが 超デラックスな装いでやってきた!

全世界の興収約6000万ドル(邦価180億円)——突然変異(?)のピンクの豹と世界警察史上稀にみる珍妙警部がはじき出した途方もない数字。コメディとして映画史上最大のヒットを記録したあの「ピンク・パンサー2」から約1年ぶり、爆笑シリーズ最新作「ピンク・パンサー3」がやってきた!

ギャグ・コメディのオ人ブレイク・エドワーズ監督、天才コメディアン、ピーター・セラーズ、アニメ・キャラクターNo.1「ピンク・パンサー」、珠玉のメロディ・メイカー、ヘンリー・マンシーニが華麗に四重奏をかenate、世界中に笑いの妙薬をバラまいた笑撃のシリーズ。この桁外れなスーパー・コメディが、面白さとスケールを何倍にもアップして再び世界の春をピンクに染めようとしている!

●地球的スケールで展開する フルーゾー警部抹殺大作戦!

推理力・行動力いずれもやや常軌を逸するきらいはあるが、名探偵としての名声をほしのままにしてきたパリ警察の名物警部ジャック・クルーゾーにピーター・セラーズ。彼の大胆不敵・八方破れの捜査活動にデリケートな神経をさんざん痛めつけられ、シリーズ前作のお終いで遂に精神病院に閉じ込められてしまう哀れな上司ドレフュス署長にハーバート・ロム。最新作のハイライトは、3年ぶりに退院したドレフュスが憎っき仇敵クルーゾーを今度こそ仕止めんものと、パリ、ワシントン、ミュンヘンなど世界を股にかけ、奇想天外なクルーゾー抹殺作戦あの手この手をくり出すところにある。巷に起こる犯罪捜査はそっちのけ、元上司と部下の間に展開する凄絶無比・抱腹絶倒の対決。果してその顛末や如何に——?

<キャスト>

ジャック・クルーゾー警部……………ピーター・セラーズ
ドレフュス……………ハーバート・ロム
アレック・ドラモンド……………コリン・ブレイクリー
オルガ……………レスリー・アン・ダウン
ケイト……………バート・ウォーク

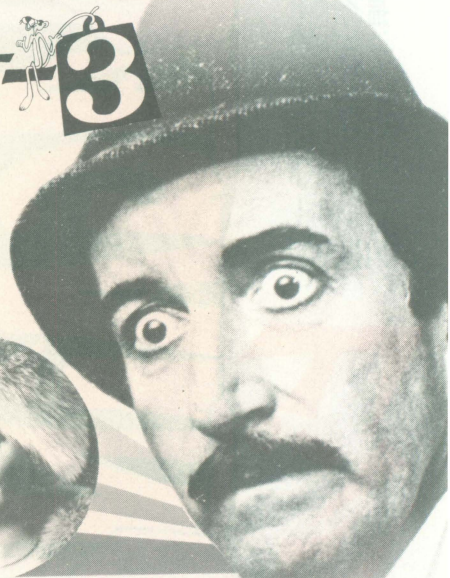
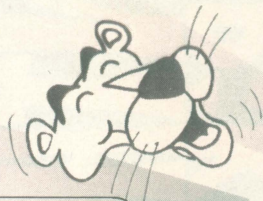
<スタッフ>

製作・監督・脚本……………ブレイク・エドワーズ
共同脚本……………フランク・ウォルドマン
音楽……………ヘンリー・マンシーニ
撮影……………ハリー・ワックスマン
アニメーション……………リチャード・ウィリアムス・スタジオ

THE PINK PANTHER STRIKES AGAIN

<カラー作品>  ユナイ映画
A Transamerica Company

ピンク・パンサー3



●猛烈ギャグの連続つるべ撃ち! コメディの枠をぶち破ったスケールに ただただ啞然!

開巻へき頭のリチャード・ウィリアムスの傑作アニメからラストの大団円まで、息つく間もないほどクレージーなギャグと見せ場が詰めこまれているこの作品。その一部を一足早くお知らせすると……

まず、クルーゾーを消すため、ドレフュスは世界中から名うての犯罪者・怪盗を狩り集めるが、その中には世界的科学者ファスベンダー博士の名も。博士は物体を消去し、それを四次元の彼方に葬り去る恐るべきレーザー光線の発明者で、ドレフュスはこれを武器に世界中を脅迫し、クルーゾーの身に迫ろうとする。しかし、対するクルーゾーも得意の変装術を駆使し、ノートルダムのせむし男スタイルで敵の本拠に突撃ラッパ! さらに全編に溢れる007のパロディも本家顔負けの迫力で特筆もの。またフォード元大統領、キッシンジャー元長官のソックリさんも登場して笑わせ、ドレフュスの私怨が遂にはCIA、KGB始め世界各国の諜報部が入り乱れるスパイ戦にも発展する超デラタメなおかしさ。そして謎の女スパイ、オルガ役のレスリー・アン・ダウンのカワイ子ちゃんぶりも呉々も見落とさぬよう——。

●76年12月16日

ロンドン・ライチェスタースクエア劇場

—居る紳士淑女が笑い転げもだえ狂った!

「これから以後、エドワーズ監督のシリアスなドラマを私は信用しない。この作品を見せられた後なら誰でもこんな気持ちになるはずだ。エドワーズ、セラーズの限りなき才能に乾杯!」
——<タイムズ>

「こんな作品を1年に1本以上作られてはたまらない。なぜなら見た後、まるで仕事にならないからだ。エドワーズ、セラーズの両氏は、笑い過ぎて悶絶するかもしれない観客の法的責任問題まで考えてこの作品を作ったのだろうか!」
——<デイリー・エクスプレス>

「これこそまさに破壊的スペクタクル・コメディ!ピンク・パンサー、クルーゾー、ドレフュスらの生き生きした動きはシリーズ中最高。面白い、とにかく面白い」
——<サンデー・ミラー>

伊勢丹前

陽春爆笑ロードショー

新宿文化 (351)
3414

*ピンクパンサーのキャラクターに関するお問い合わせは03(591)1211<代>東宝(株)事業部へ